

いわて農業農村活性化推進ビジョンの実現に向けた取組について

1 いわて農業農村活性化推進ビジョンの概要

- (1) 岩手県では、平成28年2月に、「中山間地域活性化に向けた推進方向」等を取りまとめた「いわて農業農村活性化推進ビジョン（以下「ビジョン」という。）」を策定。
- (2) 主な取組方向
 - ① リーダーや組織など“ひと”の活躍の推進
 - ② 地域の伝統や豊かな自然を活かした魅力ある農業・農村づくりの推進
 - ③ 都市農村交流人口の拡大と移住・定住の促進に向けた取組の推進
- (3) 具体的な推進方策
 - ① 「いわて農山漁村コミュニティ活性化支援事業（希望郷）」を創設（H28～H30）
 - ② モデル地区の選定

区 分	H28	H29	H30（予定）
地区数	11	12	10

本庁・現地機関で設置した支援チームにおいて、地域の取組を支援

2 これまでの取組と今後の対応

(1) モデル地区での取組状況

① 実績

ア モデル地区での地域ビジョンの策定、実践活動の展開（単位：地区）

	全体	地域ビジョン策定			実践活動		
		H28	H29	H30(予定)	H28	H29	H30(予定)
H28	11 地区	9	2	—	7	(6)3	(3)0
H29	12 地区	—	8	4	—	(6)6	(9)4
H30	10 地区	—	—	6			(3)3
合計	33 地区	9	10	10	7	(12)9	(15)7
		19				16	

()内は複数年実施を含む地区数

- ・ 平成29年度までに16地区で、都市と農村の交流活動や集落の伝統行事を継続するための取組や、地域特産品を活かした商品開発などの取組を実施
 - ・ 平成30年度は、15地区で取組予定
- イ 岩手県立大学（総合政策学部 吉野英岐教授）との協働研究
- ・ 平成28年度から、地域活性化のノウハウの蓄積を目的に、橋野地区（釜石市）と大沢地区（洋野町）での取組を支援
 - ・ 平成29年度は、橋野地区に絞って梅、舞茸を活用した商品開発等の取組について支援を実施しており、平成30年度についても支援の継続を予定

② 対応方向

- ア 集落の所得向上に向けた専門家のアドバイス等による支援
- イ 実績報告会等による現地支援チームの集落への働きかけ強化と「いわて中山間いきいき暮らし活動支援事業」を活用した支援の継続

(2) 地域活動をけん引する人材育成の取組状況

① 実績

ア いわてアグリフロンティアスクールに、集落のリーダーやマネージャー育成を目的とした「6次産業化科目群」、「農村地域活動科目群」を開講 (単位：名)

区 分	H28	H29	H30*
6次産業化の受講者	10	11	6
農村地域活動の受講者	10	19	7

※4/12現在、2次募集中

イ 有識者の講演等により、地域活性化のポイントを共有することを目的として「いわて農村コミュニティ活性化セミナー」を開催(研修講師：法政大学名誉教授岡崎氏、受講者81名)

② 対応方向

平成31年度以降の実施の継続を検討

(3) 都市農村交流人口の拡大と移住・定住の促進に向けた取組状況

① 実績

ア グリーン・ツーリズム実践塾の開催によるプロ人材の育成(延べ6団体受講)

イ 受入団体を対象としたワークショップ、民泊体験などのOJTによる実践指導

ウ 交流人口拡大に向けた推進方向を示す「地域交流推進方針」を4地域で策定

② 対応方向

誘客の拡大に向け、事業の継続を検討

(4) 東北農政局主催『平成29年度ディスカバー農山漁村(むら)の宝』について

① 東北農政局では、平成26年度より、農山漁村の活性化、所得向上に取り組む優良な事例を選定し、他地域へ横展開を図る『ディスカバー農山漁村(むら)の宝』を実施。

② 平成29年度は、岩手県より、以下の3団体の取組が選定された。

団体名	取組概要
高松第三行政区ふるさと地域協議会(花巻市)	全世帯が「足元にある資源と人材」を活用して、連携団体とともに「農福連携」に取り組む。
平庭高原「森の恵み・白樺の一滴」活用推進協議会(久慈市)	地域ぐるみで白樺美林を守り、育て、次世代に繋ぎ、商品開発と交流人口増加により活性化。
岩泉町わさび生産者連絡協議会(岩泉町)	畑わさびの生産量拡大と、農家所得の向上、畑わさびを核とした雇用創出と定住化の推進により活性化。

【東北6県の選定団体数】(応募団体数：86団体)

青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	計
1	3	2	1	2	1	10